

2019年3月期 第1四半期 決算補足資料

1. 決算概観（連結）
2. 業績のポイント
3. 主要製品の状況
4. 資本政策に関わる基本方針及び株主還元の変更
5. 業績と予想
6. 開発品一覧

【参考資料】

7. セグメント情報

2018年7月31日

キョーリン製薬ホールディングス株式会社

本資料に記載されている業績予想等は、現時点で入手可能な情報により判断した予想であり、将来の業績に影響を与える不確実な要因やリスクが含まれています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。



2019年3月期 第1四半期 決算概観 (連結)

(単位：百万円)

	16年3月期 第1四半期	17年3月期 第1四半期	18年3月期 第1四半期	19年3月期 第1四半期	前年 増減率
売上高	26,567	27,707	26,458	25,131	-5.0%
営業利益	2,173	3,244	2,595	1,178	-54.6%
経常利益	2,316	3,485	2,805	1,455	-48.1%
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	1,757	2,580	2,393	979	-59.1%

19年3月期 第2四半期予想	前年比	19年3月期 通期予想	前年比
50,200	-1.1%	114,400	+3.4%
1,900	+31.6%	8,600	-2.5%
2,200	+29.9%	9,200	-1.6%
1,500	+20.9%	6,600	+0.4%

19年3月期 第1四半期 連結業績 (実績)

【売上高】 主力製品「フルティフォーム」、「デザレックス」は伸長したものの、薬価制度改革の影響により、新医薬品（国内）は前年を下回る実績で推移しました。他方、後発医薬品の売上は増加しましたが、医療用医薬品事業合計としては減収となりました。以上の結果、全体の売上高は251億31百万円（前年同期比5.0%減）となりました。

【利益】 新医薬品（国内）の売上減少、及び薬価改定等の影響による売上原価率の上昇により、売上総利益は前年同期に対して15億45百万円減少しました。販売費及び一般管理費はコスト削減に取り組み、前年同期に対して1億29百万円減少（内、研究開発費33百万円減）しましたが、営業利益は、11億78百万円（前年同期比54.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は9億79百万円（前年同期比59.1%減）となりました。

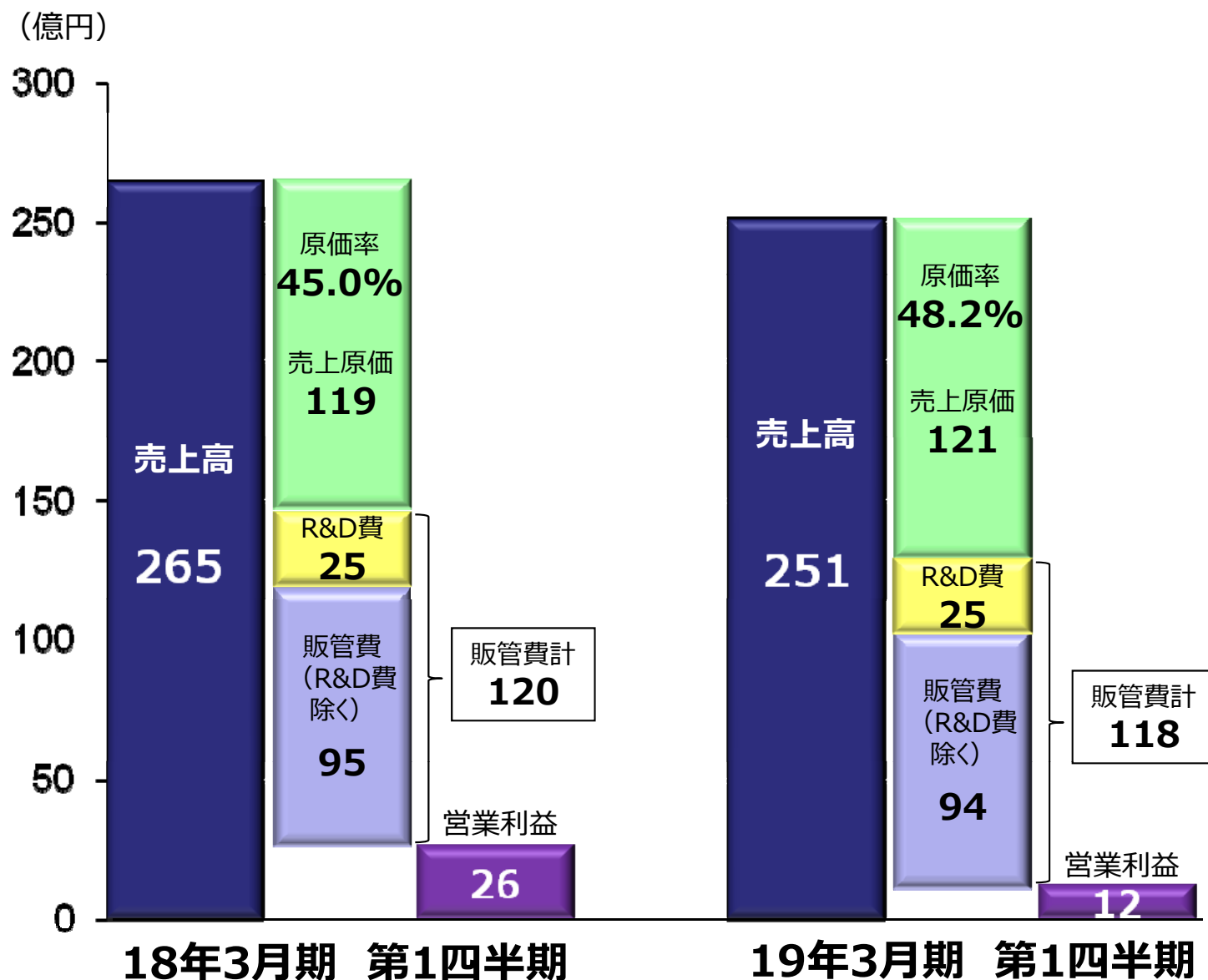
19年3月期 連結業績 (予想)

19年3月期 配当 (予想)

現時点におきまして、2018年5月10日に公表しました第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想を変更しておりません。
(第2四半期予想に対する進捗度 売上高：50.1% 営業利益：62.0%)

18年5月10日に公表しました19年3月期の配当予想を18年7月31日に修正しました。
当初予想58円/株（うち期末38円）⇒ 修正予想75円/株（うち期末45円）

2019年3月期 第1四半期 業績のポイント



【ポイント】

- 売上高は前年比14億円減少
- 売上原価率は3.2%上昇
 - ・薬価改定等の影響による売上減少
 - ・後発医薬品の売上増
 - ・棚卸資産の除却損は減少
- 売上総利益は前年比16億円減少
- 販管費は前年比2億円減少
 - ・R&D費は横ばい
 - ・販管費 (R&D費除く) は1億円減少
- 営業利益は前年比14億円減少

2019年3月期 第1四半期 業績の状況

(単位：億円)

(対前年)

	18年3月期 第1四半期	19年3月期 第1四半期	対前年
売上高	265	251	-14
医療用医薬品事業	251	237	-14
◆新医薬品	182	162	-20
○国内	180	161	-19
○海外	2	1	-1
◆後発医薬品	69	75	+6
ヘルスケア事業	13	14	+1
営業利益	26	12	-14
経常利益	28	15	-13
親会社株主に帰属する 四半期純利益	24	10	-14

■売上高	251億円	(-14)	
◆医療用医薬品事業	237億円	(-14)	
●国内新医薬品	161億円	(-19)	
	17.6 (1Q)	18.6 (1Q)	
・フルティフォーム	28	⇒ 30	(+2)
・ウリトス	19	⇒ 17	(-2)
・デザレックス	5	⇒ 15	(+10)
・キプレス	52	⇒ 33	(-19)
・ペンタサ	40	⇒ 35	(-5)
・ムコダイン	21	⇒ 17	(-4)
●海外新医薬品	1億円	(-1)	
●後発医薬品	75億円	(+6)	
	モンテルカストのAG等の売上が増加、他社向けの売上が減少		
◆ヘルスケア事業	14億円	(+1)	
■営業利益	12億円	(-14)	
◆営業利益率は4.7%と前年比5.1ポイント低下			
●原価率：前年比3.2ポイント上昇 (45.0%⇒48.2%)			
	* 薬価改定等、後発医薬品の売上ウエイト上昇		
●研究開発費率：前年比0.4ポイント上昇 (9.4%⇒9.8%)			
	* 横ばい (25億円⇒25億円)		
●販管費率(除くR&D費)：前年比1.5ポイント上昇 (35.8%⇒37.3%)			
	* 1億円減少 (95億円⇒94億円) 主に人件費の減少		
■親会社株主に帰属する 四半期純利益	10億円	(-14)	

2019年3月期 第1四半期 主要製品の状況

(単位：億円)

製品名		第2四半期		通期	
		17年9月 実績	18年9月 予想	18年3月 実績	19年3月 予想
国内 新医薬品	フルティフォーム (喘息治療配合剤)	54	57	119	123
	ウリトス (自社販売分) (過活動膀胱治療剤)	36	34	72	68
	デザレックス (アレルギー性疾患治療薬)	9	30	49	81
	キプレス(成人製剤) (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	39	29	83	60
	キプレス(小児製剤) (気管支喘息治療剤)	51	29	105	72
	ペントサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	80	73	153	145
	ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	39	32	87	72

第1四半期 (4月～6月)				
17年6月 実績	18年6月 実績	前年比	中間 進捗率	通期 進捗率
28	30	+9.4%	52.5%	24.4%
19	17	-8.8%	50.1%	24.7%
5	15	+230.8%	48.6%	18.4%
20	16	-23.1%	53.7%	25.9%
31	17	-45.7%	57.6%	23.5%
40	35	-12.4%	47.2%	24.0%
21	17	-22.5%	51.4%	22.8%

後発 医薬品	モンテルカスト錠「KM」※ (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	50	48	117	98
-----------	--------------------------------------	----	-----------	-----	-----------

※モンテルカストのオーソライズド・ジェネリック (AG)

27	33	+21.9%	68.1%	33.6%
----	-----------	--------	-------	-------

一般用 医薬品	ミルトン (哺乳ビン・乳首消毒剤)	11	11	22	23
------------	----------------------	----	-----------	----	-----------

5	6	+3.7%	47.6%	24.3%
---	----------	-------	-------	-------

資本政策の基本方針 及び株主還元策の変更について

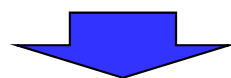
資本政策に関わる基本方針等の変更

これまでの基本方針

- ・健全な財務基盤を維持する中で、成長投資と安定的な株主還元が両立する資本政策とする
- ・株主還元は、安定的な配当を目指す

基本方針変更の背景

- ◇業績回復が一定程度、見通すことの出来る状況を迎えた
- ◇昨今の資本市場の状況、及び当社の財務状況を勘案して、資本効率の向上へ方針を転換することとした
- ◇新しい株主還元策は、特別な経営環境の変化がない限り継続していく



資本政策に関わる基本方針及び株主還元策を変更

基本的な考え方

- 中期経営計画「HOPE100－ステージ2－」のもと、事業戦略に変更はなく、持続成長のための成長投資を実行し、数値目標の達成に全力を尽くす
- DOE（株主資本配当率）を勘案して株主還元を強化することにより、株主価値のさらなる向上及び資本の効率化を目指す

基本方針及び株主還元について

基本方針

- 健全な財務基盤を維持しつつ、成長投資と株主還元を通じて、資本効率の向上を図ります
- 株主還元は、DOE（株主資本配当率）を勘案して、安定した配当を継続します

配当の予想

	18年3月期	19年3月期 (当初予想)	19年3月期 (修正予想)
1株当たり 配当金	58円 (うち期末38円)	58円 (うち期末38円)	75円 (うち期末45円)
連結配当性向	65.9%	65.7%	84.9%

※18年5月10日に公表した19年3月期の配当予想を18年7月31日に修正しました。

2019年3月期 第1四半期 業績と予想

2019年3月期 第1四半期 業績と予想 (連結)

(単位：百万円)

	第2四半期		通期		第1四半期 (4月～6月)					
	17年9月 実績	18年9月 予想	18年3月 実績	19年3月 予想	17年6月 実績	18年6月 実績	対前年 増減額	対前年 増減率	中間 進捗率	通期 進捗率
売上高	50,758	50,200	110,640	114,400	26,458	25,131	-1,327	-5.0%	50.1%	22.0%
医療用医薬品事業	47,977	47,400	104,703	108,400	25,112	23,735	-1,377	-5.5%	50.1%	21.9%
◆新医薬品	34,972	34,100	77,041	80,900	18,242	16,204	-2,038	-11.2%	47.5%	20.0%
○国内	34,449	33,600	73,702	79,900	17,999	16,057	-1,942	-10.8%	47.8%	20.1%
○海外	523	500	3,339	1,000	242	146	-96	-39.7%	29.2%	14.6%
◆後発医薬品	13,005	13,200	27,662	27,400	6,870	7,531	+661	+9.6%	57.1%	27.5%
ヘルスケア事業	2,781	2,800	5,937	6,000	1,346	1,396	+50	+3.7%	49.9%	23.3%
営業利益	1,443	1,900	8,822	8,600	2,595	1,178	-1,417	-54.6%	62.0%	13.7%
経常利益	1,693	2,200	9,345	9,200	2,805	1,455	-1,350	-48.1%	66.1%	15.8%
親会社株主に帰属する 四半期 (当期) 純利益	1,240	1,500	6,574	6,600	2,393	979	-1,414	-59.1%	65.3%	14.8%

開発品一覧① (2018年7月31日現在)

PhⅢ ~ 承認

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
申請 (17年9月)	【米国、他】 UROVANT社 : PhⅢ開始	KRP-114V	過活動膀胱	米国 メルク社	<ul style="list-style-type: none"> 従来の過活動膀胱治療薬と比較して、副作用が少なく、服薬コンプライアンスが高まることが期待される β3作動薬として、薬物相互作用が少ない 本剤が分類されるβ3作動薬は、過活動膀胱治療におけるファーストラインとなる可能性がある 	米国メルク社とライセンス契約 (14年7月) キッセイ薬品工業(株)と共同 開発・共同販売に関する 契約を締結(16年3月) 米国メルク社とアジア地域に おけるライセンス契約 (17年4月)
申請 (17年4月)		KRP-AM1977X (経口剤)	キノロン系合成抗菌剤	自社	75mg 1日1回投与で優れた臨床効果を確認(市中呼吸器感染症・耳鼻咽喉感染症) ・呼吸器、耳鼻科感染症の起炎菌、及びβラクタム系・マクロライド系抗菌薬耐性株に対して強力な抗菌活性を示す ・血漿比10倍を超える肺組織への良好な移行性 高い安全性が期待される ・同系統の抗菌剤で懸念される、血糖値異常、光線過敏症、関節障害、消化器症状などを引き起こす可能性は低い	KRP-AM1977Xについては、追加の非臨床試験を実施中
PhⅢ (16年3月)		KRP-AM1977Y (注射剤)	キノロン系合成抗菌剤	自社		
PhⅢ (17年3月)		KRP-116D	間質性膀胱炎治療剤	—	医療上の必要性の高い未承認薬・適用外薬に該当する「ジメチルスルホキシド」	
PhⅢ (17年6月)		KRP-108P	気管支喘息	英国 バクテリア社	喘息治療配合剤「フルティフォーム」の小児適応拡大	

開発品一覧② (2018年7月31日現在)

POCプロジェクト (Ph I ~ Ph II)

※前回 (2018年3月期 決算発表 : 5月10日) からの変更点

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
Ph II		KRP-N118 (SK-1404)	夜間多尿に伴う 夜間頻尿	(株)三和化学 研究所	バソプレシンV2受容体のアゴニストで、腎臓の 集合管で水の再吸収を促進して尿量を減ら す (抗利尿作用) 有効性と安全性に優れた夜間多尿に伴う夜 間頻尿治療薬として期待されている	(株)三和化学研究所とライセンス契約 (18年3月)
※Ph II (18年6月)		Ad-SGE-REIC	悪性胸膜中皮腫	岡山大学	岡山大学で発見された新規がん抑制遺伝子 REICを使用する遺伝子治療薬。がん細胞 選択的アポトーシスと抗がん免疫の活性化を 誘導することが期待される	産学共同実用化開発事業 [NexTEP]への採択(14年6月) 【米国】桃太郎源(株)が前立腺がんの 臨床試験(Ph I / II)実施中 【日本】岡山大学で肝がんの医師主 導臨床治験 (Ph I / I b)実施中

導出品の状況

開発段階/海外	製品名・ 開発コード	導出先	薬効	起源	特徴	備考
Ph I	FPR2作動薬 プログラム	米国 プリストル・マイヤーズスクイブ社	非開示	自社	FPR2作動薬。主に好中球の遊走を 抑制し抗炎症作用を示す	プリストル・マイヤーズスクイブ社 とライセンス契約 (15年12月)

参考資料

報告セグメントごとの売上高および利益

(単位：億円)

	売上高		セグメント利益	
	金額	対前年	金額	対前年
合計	251	-14	12	-14
医療用医薬品事業計	237	-14	11	-14
◆新医薬品	162	-20		
○国内	161	-19		
○海外	1	-1		
◆後発医薬品	75	+6		
ヘルスケア事業計	14	+1	0	0
調整額	-	-	1	0